



朝来市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成28年3月 ■ 人口：30,848人 ■ 面積：403.06km²
■ 担当課：朝来市委員会文化財課（平成30年3月現在）



朝来市は、山陰道・播但道・古代官道の結節点、すなわち「但馬の南玄関」である。古代から朝鮮半島との独自交流によって発展し、中近世には全国屈指の銀山を擁する生野が天下人の財源を支え、周辺に強固な城郭が作られた。明治には官営鉱山として日本の近代化に大きく貢献した。人・モノ・文化交流の中心地として発展した地域の個性を、まちづくりに活かしていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

交通の要衝、文化交流の拠点、古代王墓群、
中世山城城郭群、近代化産業遺産群

課題

- ・文化遺産を活用した観光振興と
保全、維持の両立
- ・少子高齢化に伴う人口減少による
後継者不足

保存活用方針

- ・地域産業の創出による地域活性化
- ・地域の個性を活かした環境整備
- ・次世代が地域を学ぶ教材活用
- ・郷土愛や地域の誇りを醸成

保存活用のための取り組み

地域産業の創出による地域活性化 への取り組み

生野鉱山の坑夫たちの冬の滋養強壮のために作られ、朝来市を代表する農産物「岩津ねぎ」。地域ブランドとして生産が進められるだけでなく、地域住民の提案による料理コンテストや地域業者とのコラボメニューを開発。



地域の個性を活かした環境整備 への取り組み

鉱山採掘とともに発展し、鉱山町独特の文化を育んできた生野鉱山町は、鉱山が地域住民の誇りとして根付いている。地域の歴史的建造物を登録文化財とするなど、景観の維持を図る。地域の歴史文化遺産を周遊し、観光を促進する取り組みを進める。



次世代が地域を学ぶ教材活用の 取り組み

学校教育における地域の郷土学習だけでなく、地域においても主体的に取り組む。朝来市の自然に触れ合うことで地域の個性を学ぶ機会を作る。合併以降、旧町単位ではなくより広い視野から地域の関係性を伝えていくことが求められる。



郷土愛や地域の誇りを醸成する 取り組み

地域の個性を自覚的に再確認し、魅力を高める取り組み。地元出身の児童文学作家を題材に、生まれ育った環境や時代背景を学び、文学を通じて地域の歴史との距離感を埋めることで、郷土愛や地域の誇りを醸成する。



関連文化財群



朝来市は、古代・中世・近現代の3つの時代において、核となる歴史文化遺産がある。特に、中世から近世にかけては、竹田城跡を代表として城郭群が多く存在し、当時の朝来市周辺の様子を紐解く2つのキーワードが見えてくる。ひとつは織田氏、豊臣氏による「天下統一」への道。もうひとつは当時日本が東アジアで最大の産出量を誇った「銀」の確保である。

ストーリー

- ① 南但馬における古代王墓群
- ② 中世から近世初頭にかけての城郭群
- ③ 生野銀山と関連遺産による近代化産業遺産群

策定後の成果（見込まれる効果）

① **地域住民の興味関心の醸成**
竹田城跡や生野銀山といった、全国的に有名なものではなく、地域が古くから大切にしてきた歴史文化遺産を再度洗い出し、調べてみようという取組みが増加している。地域自治協議会を窓口として文化遺産活用補助金を使ったパンフレット製作や、地域の声を形にした博物館展示などが行われるようになってきた。



② **地域活性化、観光振興の促進**
歴史文化遺産を観光振興につなげる取組みは朝来市の重要施策として実施しているところだが、行政だけでなく、官民が一体となった事業展開が図られつつある。日本遺産認定は、地域の歴史文化遺産を住民自らがPRし、地域の盛り上がりによって勝ち取ったものであり、地域の要望によって文化遺産の観光地整備が行われるなど、効果が表れ始めている。



③ **歴史文化遺産保護の取組み**
生野地域においてもより行われていた古文書調査研究が、全市的な取組みに拡大しつつある。域学連携によって古文書の整理、保管方法を学び、貴重な資料を地域で守っていくための技術向上の機運が高まっている。また、歴史文化遺産を巡るイベント等の開催や、文化財修理等にかかる問い合わせが増加している。

